

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese di Kyoto

現代イタリア事情 -Italia oggi- 第4回

* イタリア人の織りなす家族模様 *

立元 義弘

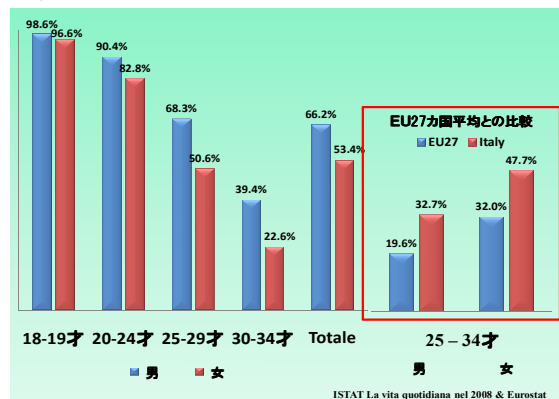
家族を大切に思う気持ちは人類普遍の価値観ですが、特にイタリア人にとっての家族の絆というものには特別なものがあるように思えます。イタリアは6千万人の人口に対して9千万件の回線契約件数を誇る、世界でも有数の携帯電話大国ですが、その理由は携帯電話が常に家族とつながっていることを確かめられる格好の道具であるからだ、などともっともらしいことを唱える人もいます。しかし、このことは私自身もイタリア在住中に多くのイタリア人家族との付き合いを通じて感じてきたことですし、また、イタリア人自身にもその自覚があるようで、2009年に行われたある世論調査では、「他国民と比べてイタリア人の特質を表わしていることは何だと思いませんか。」という質問に対して、4人に1人が「家族への愛着」と答え、これが最多の回答でした。

しかし、そうしたイタリア人の家庭も、他の先進諸国と同様、核家族化が進んでいます。世帯当たりの平均人員は2.47人で、子供が一人以上いる世帯がおよそ半分、残りの半分が独居世帯か夫婦のみの世帯となっています。そして、日本が2.62人ですから、日本よりさらに核家族化が進んだ社会であるということが言えます。この背景には少子化・晩婚化・非婚化のトレンドがあるわけですが、一人の女性が一生に何人の子供を出産するかを表す指数で、これが2.1を下回るとその国は人口を保つことができないとされている合計特殊出生率は、イタリアが1.40、日本が1.37で、両国ともに2000年代前半を底にわずか

な回復傾向にはあるものの、ともに世界で最も低いレベルです。

こうした核家族化社会の中で、最近よく耳にする“バンボッチョーネ”という言葉があります。“大きなバンボッチョ(ぽっちゃりした男の子)”というような意味で、立派な大人になっても自立せず、両親と同居を続ける若者たちがこう呼ばれていますが、イタリアは欧州の他の国々と比べても、このバンボッチョーネが多い国のひとつで、25~34才の若者のうち、男性の2人に1人、女性の3人に1人が両親と同居しており、EU27カ国の平均(男32%、女20%)をはるかに上回っています。

<図1>



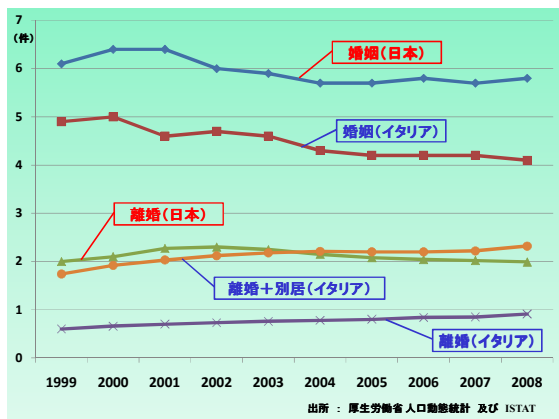
【<図1>未婚者の親との同居比率】

頭の薄くなりかけたヒゲ面のバンボッチョーネが、3度の食事から毎日のベッドメイキングに至るまで、何かと世話を焼いてくれる母親に対してマンマ、マンマではあまり絵になりませんが、冒頭に述べた家族の強い絆の存在が、こうした現象

を作り出しているのでしょうか。ただ、イタリアのバンボッチョーネの名誉のために付け加えますと、リーマンショック以降の経済危機と、29%にも達する若年失業率のせいで、自立したくともできないという事情も大きな要因を占めており、単に居心地の良さだけで同居を続けているわけではなさそうです。

日本でも一時パラサイトシングルという言葉が流行りましたので、こちらはどうかと思う、調べたところ、同じく25～34才未婚者の同居率は、何とイタリアよりもさらに高く、男で約70%、女が約80%（国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査」というものでした。イタリアほどではないだろうという私の先入観は覆され、日本版バンボッチョーネの広範な“生息”を確認することとなった次第ですが、これが家族の絆の賜物なのか、それとも今の日本の世の中がそうさせているのか、わからないところです。

次に家族の最小単位である夫婦に目を向けて、結婚と離婚についてのイタリア事情をご紹介します。



【<図2> 1000人あたりの婚姻・離婚件数推移】

15歳以上の人口に占める未婚者の割合は、男性で3人に1人、女性で4人に1人といった感じで、ほぼ西欧先進国の平均的なレベルです。しかし、現在進行しているトレンドは「結婚しない」ということで、この数年は婚姻件数も減少傾向が続いています。<図2> また、平均初婚年齢も上昇中で、1970年代より約6才上昇し、2008年では男33.0才、女29.9才となっています。因みに日本は男が30.2才、女は28.5才で、イタリアの方が更に高くなっていますが、程度の差はあれ、非婚化・晩婚化は日伊共通のトレンドと言えるで

しょう。

しかしながら、カップルが晴れてめでたくゴールインするまでのプロセスには、かなり違いがあるようです。日本も今でこそ見合い結婚の占める割合が6%にまで下がってきているそうですが、全体の3割を占める「社内結婚」や、最近流行りの「婚活支援イベント」、「結婚斡旋ビジネス」等を通じたパートナー選びは、イタリアのみならず欧米では普通ではありません。たいていの場合は、知人や友人との交際関係の中から自然発生的に（即ち、個人ベースの「婚活」を通じて、）、婚約者を意味する fidanzato と fidanzata としてのカップルが誕生します。但し、いきなり言葉通りに結婚を前提とする交際ではもちろんなく、最初は steady-going な恋人関係程度の交際を重ねる中で、じっくりとパートナーを選び、日本人の平均と比べると間違いなくずっと長い交際期間の後に、結婚の決意に至ります。こうした状況ですから、結婚以前に既に事実上の夫婦としての実績を積んでいるカップルも少なくありません。欧州他国に比べると少ない方ではありますが、新生児の18%が未婚の両親の間にできた子供であるというデータもあるくらいです。

そして、結婚式は教会で聖職者の取り行う婚姻の秘跡(Sacramento del matrimonio)に則って行う宗教婚(matrimonio religioso)が普通であったのですが、最近は、市役所で市長、または市の職員の立会いのもとに行う、よりシンプルで経済的な民事婚(matrimonio civile)が増えてきており、現在では3組に1組がこの民事婚を選んでいきます。また、イタリアでは夫婦別姓が認められているので結婚後も旧姓を名乗る女性が多いこと、3組に2組のカップルが結婚時に双方の財産の分別管理を選択することなど、アモーレの国のイタリア人も、いざ結婚となるとかなり現実的です。

次に、離婚についてみてみましょう。日本の場合、1000人あたりの年間離婚件数は2件ですが、イタリアはその半分以下のわずか0.9件で、EU27カ国の中でも1件未満の国はイタリアとアイルランドだけです<図2>。これは一体、なぜなのでしょう。

ひとつには、カトリックの教義が離婚というものを認めていないことがあるでしょう。もう少し正確に言うと、そもそも離婚という考え方が教義にお

いては存在しないのであり、カトリック教会で誓いを交わし、認められた婚姻契約は解消することができない、ということなのです。即ち、別居状態であろうが、戸籍を抜こうが、よほど正当且つ特別な理由がない限り、カトリック教会の信者としては、結婚式の時に授けられた婚姻の秘蹟は帳消しにはできないことになっているのです。そして、パートナーとの死別による再婚でない限り、離婚後の再婚者は重婚の罪を犯した者とみなされ、礼拝や結婚式・葬式の参列者に対して行われる聖体拝領を受けることができないことになり、敬虔なカトリック信者にとってはとても大きな問題となってまいります。



【新郎新婦に豊穡のシンボル、コメをふりかけて祝福】

しかし、いくら主キリストの御霊の前で永遠の愛を誓い合った夫婦であっても、無理なものは無理、もう我慢ができないということになれば、民事手続に入ることになるわけですが、イタリアで離婚の少ない二つ目の理由として、離婚に至るまでの多くの時間や手続の煩雑さがブレーキになっているということが考えられます。イタリア統一直後の19世紀後半から幾度も議論され続け、ようやく1970年に成立した離婚法ですが、法的に離婚が認められるためには、まず、離婚の前段階として「別居」(separazione)の申し立てを行い、教会が役所、或いはその双方でその申し立てが認められてから、更に3年間の“別居実績”を積まないで戸籍上の離婚が認められないということになっているからです。(現在、3年の期間を1年に短縮

する改正法案が審議されています。)

とはいえ、年間25万件にのぼる日本の離婚件数(2008年厚生労働省)には遠く及ばないながらも、ここ数年、イタリアの別居・離婚件数は年々増加の傾向にあり、2008年には別居約8万件、離婚約5万件で、この10年間でそれぞれ41%、55%の増加となっています。



【新郎新婦以外は案外インフォーマルな装い】

上記の事情によるイタリアの「別居」も、事実上はれっきとした「離婚」だと考えられなくもありません。とすると、別居と離婚を足して13万件。対する日本は25万件。イタリアの人口が日本のおおよそ半分ですから、比率的には、ほぼ、同じレベルということになります。こう察すればイタリア人も日本人も同じ程度の“忍耐力”の持ち主ということになるのでしょうか？

(大阪大学講師、元パナソニックイタリア社長)

イタリア発月刊日本語新聞



イタリア在住日本人と日本人観光客のための情報誌

編集・発行 NIPPON CLUB SNC
Via Torino, 95 - 00184 Roma, Italy
Tel. & Fax : (06) 4743. 212
E-mail : comeva@nipponclub.it
URL : www.nipponclub.it

イタリア通信

第6回 『腐敗の時代』 - *L'era del malcostume* -

深草 真由子

イタリアは墮ちた。—2月3日の夕飯後、生放送の政治討論番組を見ていた時のこと、「Federalismo municipale が暫定措置令として閣議で可決された」という速報が入った。「えーっ！そんなのあり？」—テレビの中では中道左派、民主党のベテラン女性議員ビンディが顔を真っ赤にして、強く抗議し始めた。「これは違憲だ！ナポリターノ大統領が認めるはずがない。」

驚きを通り越して呆気にとられることが、思えばこれまでも何度も起きた。テレビや新聞で報道される出来事があまりに常軌を逸しているので、我が目を疑ってしまうのだ。求職中の女性に「仕事を見つけるよりも、金持ちの男を見つけた方が良い」と言ってしまうベルルスコーニと、「うちの息子(現在 23 歳でロンバルディア州議員…ニポティズモ?)が落第したのは南部出身の(南部出身だから?)出来の悪い教師の仕業だ」と言ってしまう北部同盟の党首ボッシが政権に居座っていられること自体がそもそも不思議な上、首相の贈収賄、マフィアとの癒着、マスメディアの独占、数々の失言、近々開始される3件の裁判…金と権力を手中にした首相のやりたい放題ぶりは本当に目に余る。昨年8月来伊したリビアの独裁者でベルルスコーニの親友カダフィ大佐のご機嫌取りに、どこからともなく集合した(集合させられた?)派手な身なりの 500 人ものエスコートがコーランを片手に大佐を褒めちぎっていた、あの異常な光景も忘れられない。

1月のイタリア政界は明けても暮れてもベルルスコーニ首相のスキャンダル、いわゆる Rubygate で一色だったと言っても良い。首相の女性問題はこれまでも何度も取り上げられたが、今回は未成年がベルルスコーニのお相手の中に含まれていたということで大きな騒ぎになっている。モロッコ人で当時 17 歳だった Ruby が窃盗で補導された際、首相はミラノ警察署に直々に電話をかけ、「彼

女はエジプトのムバラク大統領の孫だから、大事に至らないよう…」とトンデモない発言をしたという。そしてその Rubyこそ、ミラノ近郊アルコレにあるベルルスコーニ邸で開催されるトンデモないパーティー(いわゆる「ブンガ・ブンガ」。カダフィ大佐から伝授されたと言われていた)に参加し、金銭と引き換えに体を売った女性の一人であることが発覚した。彼女は口止め料として首相に 5,000,000 ユーロを要求した他、現金 5,000 ユーロを受け取ったらしい。Ruby に関するこれらの事件を発端に、仰天もののエピソードが次々に明るみに出た(首相のアブノーマルなプライベートに関しては // *Fatto Quotidiano* や *L'espresso* の HP を参照のこと)。世論調査の支持率は30パーセントそこそこで持ちこたえてはいるものの(それがまた不思議なのだが…)、あのいつものニタニタした笑いは消え、日に日にやつれていくベルルスコーニの姿はテレビ画面上でもよく見てとれた(とはいえ「普通の」民主主義国のトップであれば、買春疑惑が発覚した時点で即辞任に追い込まれるところだろうが…)



【「ベルルスコーニは刑務所へ」デモ】

検察は少女買春容疑の立件のための決定的な証拠を握っているのだろうか？ブンガ・ブンガの実態を如実に語る画像は本当に存在するのだろうか？自由の人民党(Popolo della libertà)がPRしている「司法いじめの犠牲者」としてのベルルスコーニ像を、イタリア国民は信じているのだろうか？彼らは最終的にベルルスコーニを許すのだろうか？いや、そもそも許すことなど何もないと思っていたりして…。なにかが、いや、なにかもがおかしい。私の頭は混乱状態のまま、1月が過ぎ去った。

2月3日。「鬼は外」と言うからには、早いことベルルスコーニを追い出してくれないものかと内心期待していたが、そんな日本の風習などイタリアの政治家は知る由もない。この日は2件の重要な決議を控えていた。ベルルスコーニと連立を組む北部同盟が強く望む Federalismo fiscale の一法案 Federalismo municipale に関する両院合同委員会における審議と、もう一つは Rubygate に関して首相の会計係のオフィスの家宅捜索の認可の付与決定だった。Federalismo の中身については後述するとして、北イタリアの強力な地盤に支えられ、飛ぶ鳥を落とす勢いで勢力を拡大する強気の北部同盟は、この Federalismo の法案が通らない場合には連立を解消する可能性をチラつかせていた。Federalismo か選挙か—今に始まったことではないが、ベルルスコーニ政権の舵取り役は北部同盟なのであった。午前中から審議が続けられていた両院合同委員会における採否は賛成15票、反対15票で、結局 Federalismo municipale の法案は否決された。ブンガ・ブンガの裏で動いた金を押さえるためのオフィス捜索については与党の過半数で却下されたとはいえ、この時点でベルルスコーニはまさに崖っぷちに立たされたことになる。彼の運命は北部同盟の「Si」か「No」で決まってしまう。

夕方のニュース番組(もちろん、反ベルルスコーニのテレビ局のものである)では「Bocciatura storica (歴史的な否決)」というタイトルが踊っていた。どんな苦境に陥ろうがなんとか今まで踏ん張ってきたベルルスコーニも、北部同盟に三行半を叩きつけられ、ここでやっと退場してくれるのかもしれない—そんな歴史的な瞬間が目の前に迫っているかのような期待感をにじませるタイトルだった。野党議員たちは「選挙だ！選挙だ！」と言っている。雰囲気は盛り上がっているように見えたのだが、イタリア政治の実態をまだ十分に理解していない私の読みは甘かった…。

Federalismo municipale 法案は、委員会で否決されたほんの数時間後、緊急に招集された閣議において暫定措置令として可決されたのである。暫定措置令とはそもそも早急に措置を講ずる必要がある場合にのみ政府によって制定される臨時的法律で、大統領によって発布されてから、施行期間の2ヶ月以内に議会で承認されれば正式

な法律となる。今回の場合はそもそも緊急性があるのかどうか疑問な上、まだ詰めが甘く、さらなる審議が必要だという立法府の意思を無視した、政府の特権濫用である。自分達の要求さえ通ればそれで良い北部同盟と、今選挙をすれば苦戦を強いられることが目に見えているベルルスコーニ側との間で“助け合い精神”が働いた結果であろう。あるいは北部同盟が瀕死のベルルスコーニを延命させて、甘い汁を吸ったとも言えようか。まったく、やりたい放題である。



【北部同盟の党首ウンベルト・ボッシ】

イタリアはどこまで墮ちるのだろうか。近々急展開があるかもしれないベルルスコーニ政権については日々のニュースを追っていくこととして、ここで北部同盟が強く要求する Federalismo fiscale に話を移そう。これは 1991 年の発足以来、北部の自治権拡大を主張してきた北部同盟の最も重要な公約である。イタリアは工業化の進んだ北部と農業・観光業中心の南部との間の経済格差が著しく、そのため北部で納められた税金の一部が南部のために使われるのが現状である。Federalismo fiscale とはその不均衡(?)を是正し、簡単に言えば、ミラノ市に納められた税金はミラノ市民のために、ロンバルディア州に納められた税

金はロンバルディア州民のために使われるシステムである。委員会で否決され、閣議で可決された上述の Federalismo municipale とは市の財政に関連する Federalismo fiscale の一部である。伊和辞典に「federalismo = 連邦主義、連邦制度」とあるように、この単語は「複数の支分国が単一の主権の下に統合すること」を意味するのだが、北部同盟の望む Fedelarismo は本来とは逆の意味、つまり「イタリアを二分すること」だと言っても良いであろう。(北部同盟は過去に北部の州からなる連合共和国「パダーニャ」の独立を宣言したこともある。)「足手まといの南を見放して、自分たちの金は自分たちのために使いたい」というのが彼らの本音であるのだから。(要するに北部のエゴイズムではないか?) 国からの交付金が途切れたら(あるいは大幅に削減されたら)南部はどうなるのだろう。病院、道路、学校、警察、衛生…公共サービスがうまく機能する保証は今のところない。南に住む者にとって Federalismo fiscale は不安の種であり、トスカーナ州にまで勢力を拡大し、巧みに政府を操る北部同盟は脅威でさえある。折しも今年にはイタリア統一 150 周年。南北での喧嘩なぞしてほしくないものだ。



【No al federalismo】

(元当館スタッフ)

… 会館 だ よ り …

イタリア語 無料体験レッスン

4月より開講の春期イタリア語講座に向けて、体験レッスンを開催します。入門者向け。事前予約制。

● 梅田：大阪駅前第4ビル

4/ 3 (日) 13:00~14:30
4/ 6 (火) 19:00~20:30

● 京都本校：日本イタリア京都会館

4/ 2 (土) 11:00~12:30
4/ 2 (土) 13:00~14:30
4/ 5 (火) 11:00~12:30

● 四条烏丸：ウイングス京都

4/ 4 (月) 19:00~20:30

スペイン語 無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

日時：4/ 2 (土) 16:00~17:30
会場：日本イタリア京都会館 本校
講師：当館スペイン語講師

ポルトガル語無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

日時：4/ 5 (火) 19:00~20:30
会場：日本イタリア京都会館 本校
講師：当館ポルトガル語講師

Festa di primavera 2011

心地よい春のイタリア会館で親交を深めましょう

日時：4/17 (日) 12:00~15:00
※雨天等の場合、24日(日)に順延
会場：日本イタリア京都会館 本校
参加費：

一般	4,000 円
個人維持会員・受講生	3,500 円
小学生	1,000 円
未就学児	無 料



編集・発行 // (財) 日本イタリア京都会館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 4
TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
E-mail: centro@italiakaikan.jp
URL: http://italiakaikan.jp/